

国立大学法人群馬大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

群馬大学は、北関東を代表する総合大学として、知の探求、伝承、実証の拠点として、次世代を担う豊かな教養と高度な専門性を持った人材を育成すること、先端的かつ世界水準の学術研究を推進すること、そして、地域社会から世界にまで開かれた大学として社会に貢献することを基本理念に掲げている。第2期中期目標期間においては、基礎知識に裏打ちされた深い専門性を有する人材の育成や国内外の大学・研究機関と連携して先端的研究を推進し国際的な研究・人材育成の拠点を形成することなどを目標としており、例えば、アクティブ・ラーニングの積極的な導入や「未来先端研究機構」、「群馬大学国際メディカルイノベーションラボラトリー」の設置等を行っている。

しかしながら、附属病院において、腹腔鏡下肝切除術等に係る医療事故が発生していたにも関わらず、適切な要因分析等がなされることなく手術が継続して行われていたことがあり、結果として複数の患者が死亡するという極めて重大な事態が生じるとともに、特定機能病院の承認が取り消されるという事態に至った。このことは、群馬大学の中期目標前文に掲げる「地域医療を担う中核として、医療福祉を向上させる」や「不断の点検・評価と改革を推進する」という点に照らして、極めて深刻な事態であると考えられる。中期目標・中期計画の達成に向けて、徹底した問題点の検証を行うとともに、医療安全管理体制の強化や組織体制の見直し等に全学一体となって取り組み、社会からの信頼回復に向けてあらゆる面で努力することが求められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、次のような戦略的・意欲的な計画を定めて、積極的に取り組んでいる。

- 特色を活かしつつ、優れた研究教育拠点の形成等を目指した計画を定めており、平成26年度においては、研究面では、重イオンマイクロサージェリーに対する適応症例の治療に必須の微小重イオンビームの位置決め並びに線量測定のための測定器を開発したほか、教育面では、外部研究者を招へいし、助言・指導や特別講演を行うとともに、優秀な研究者を獲得するため、チリにおいて海外出前シンポジウムを開催している。
- 強みを有する統合腫瘍学や内分泌代謝学等の先端研究分野において、世界水準の研究力を強化するため、先端的な研究組織を設置して、海外から優秀な外国人研究者を招へいし、国際共同研究を推進するとともに、機動的・戦略的な法人運営を行うため、教員を全学的に一元管理する組織を設置する計画を定めており、平成26年度においては、教員組織を全学的に一元化した「学術研究院」を活用して「未来先端研究機構」を設置し、運用を予定している全6プログラム中3プログラムを先行して開始するとともに、国際シンポジウムを開催し国内外の研究者による講演を行っている。

(機能強化に向けた取組状況)

教育、研究、社会貢献等の大学業務を柔軟かつ機動的に遂行するため、全学組織である「学術研究院」を平成26年4月に設置し、教員組織の一元化を図るとともに、学長、理事及び学部等の長等から学長が指名する執行役員により運営される「執行役員会議」

を新たに設置して、これまで学部等の教授会で行っていた教員の選考を行うこととし、平成 26 年度は教員 69 名の採用や昇任等の選考を行ったほか、優秀な人材を確保し教育・研究活動を活性化するため、業績評価に応じた弾力的な給与の運用を可能とする年俸制について、新たに「未来先端研究機構」を主担当とする教員に適用したほか、その他の学部等の教員にも適用範囲を拡充している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 女性教職員等の交流・相談スペースの設置による男女共同参画の推進

男女共同参画を推進するため、女性教職員等の交流・相談スペースとして「まゆだま広場」を各キャンパスに設置しており、妊婦の休憩室や授乳室、両立アドバイザーやメンターによる相談、教職員の交流等の多目的なスペースとして活用され、平成 26 年度は延べ 1,095 名が利用している。

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 複数回にわたる医療事故を引き起こした医療安全管理体制の重大な欠陥

附属病院において、腹腔鏡下肝切除術等に係る医療事故が発生していたにも関わらず、死亡事例についての適切な要因分析や病院長への報告がなされることなく、手術が継続して行われていたことがあり、結果として複数の患者が死亡するという極めて重大な事態が生じるとともに、厚生労働省社会保障審議会医療分科会から医療安全管理のための体制確保に問題がある等の指摘を受け、特定機能病院の承認が取り消されるという事態に至った。

大学としては、診療体制の見直しや医療安全管理体制の強化等に向けた取組を行っているが、今後も引き続き改善すべき点の検証等を行い、さらなる医療安全管理体制の強化や組織体制の見直し等に積極的に取り組むほか、全ての教職員が本事例の重大性を受け止め、一人一人が意識改革を行うことも強く求められる。

【評定】 中期計画の達成のためには**重大な改善事項**がある

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、附属病院における医療安全管理体制に抜本的な改善が必要と判断されること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成25年度において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 習熟度別クラス編成による英語授業の実施等による学生の英語力向上

教育のグローバル化を推進するため、教養教育において、習熟度別クラス編成による英語授業を実施するとともに、医学系研究科及び保健学研究科博士後期課程の入学試験においては、TOEFL等のスコアを外国語(英語)の筆記試験に代えることができることとしたほか、各キャンパスの図書館には英語力を養う学習に資するため、英語多読教材を約2万2,000冊配架している。

○ 国際社会において活躍できる人材を育成するシステムの全学展開

国際社会において活躍できるトップリーダーを育成するため、平成25年度から医学部及び理工学部において「グローバルフロンティアリーダー育成コース」を開設しており、平成26年度には新たに28名を選抜するとともに、平成27年度から教育学部及び社会情報学部の学生を対象とした同コースの開設を決定しており、これにより全学

で実施する体制を構築している。

○ 医理工連携による画期的な医療技術等の開発の推進に向けた体制整備

生命医科学と理工学が融合した国際的研究・教育拠点を構築し、従来の枠を超える画期的な医療技術、医薬機器及び医薬品の開発を推進するため、「群馬大学国際メディカルイノベーションラボラトリー」を設置しており、理工系教員及び医学系教員合同チーム研究体制による研究の実施や国際シンポジウムの開催等を行っている。

○ 地域の活性化と国際化に貢献する人材養成の取組とその成果

社会的・文化的に多様な住民を抱える群馬県において、「多文化共生」をキーワードに地域活性化に取り組む人材を育成する「多文化共生推進士」養成事業の実施等、地域に根付いた取組を実施した結果、民間シンクタンクが実施する「全国大学の地域貢献度調査（2014）」において、地域の国際化への貢献度を探る「グローバル」分野で全国1位を獲得している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 医療実用化に向けた基盤の構築

トランスレーショナルリサーチセンターにおいて、学内における医療シーズの同定研究等を推進するとともに、臨床開発研究のための専門的外来として設置された先端医療科において、平成26年1月から臨床試験を開始した「イリノテカンの感受性判定方法及びその利用」についての国際特許が中国で登録されるなど、医療の実用化に向けた基盤の構築を進めている。

（診療面）

○ 感染者受入手順の徹底等によるエボラ出血熱対策

第一種感染症指定医療機関として県内で唯一エボラ出血熱患者の受入れが可能な病院として、エボラ出血熱の疑いのある患者の発生に備え、県と県警、医療機関等による合同訓練を行っており、感染者の移送や通報の流れを確認するとともに、使用する車両やスタッフの配置をはじめとした感染者受入手順を確認している。

（運営面）

○ 経営改善に向けた経費抑制の取組

積極的に経費抑制を図るため、各診療科等に対して病院長によるヒアリングを実施し、経営改善等についての意見交換を行うとともに、ジェネリック薬品の使用拡大（平成25年：34.2%→平成26年：48.2%）や民間コンサルタント会社を活用した医用材料等の削減（約1.4億円）などの取組を実施している。

（附属病院において発生した医療事故について）

○ 医療事故の経緯

平成22年12月から開始された旧第二外科の腹腔鏡下肝切除術において、複数の死亡例があることが平成26年度に判明した。附属病院に設置された腹腔鏡下肝切除術事故調査委員会の調査によれば、8例の患者が術後4ヶ月以内に亡くなっていた。また、開腹の肝切除術においても10例の患者が亡くなっていることが判明した。

本調査委員会では、インフォームドコンセント等様々な問題が指摘されたほか、特

に病院全体の管理体制として、問題事例の早期把握、倫理審査の徹底、適正な保険請求等に不備が認められたとされた。

また、本事案を受けて、平成27年6月1日付で厚生労働大臣から特定機能病院の承認が取り消された。

○ 医療事故に対する対応状況

大学としては、外科診療センターの設置や臓器別診療科への再編成など診療体制の見直し、集中治療部、手術部、看護部と医療の質・安全管理部（医療安全管理部を改組充実）の連携強化など医療安全管理体制の強化、法令、規約、指針等の遵守の徹底を図るコンプライアンス推進室の設置による職員教育・研修体制の整備等、医療安全の充実への取組を行っているが、さらに今後は学長の下に設置した群馬大学医学部附属病院改革委員会の提言や医療事故調査委員会の調査等も踏まえつつ、継続して取組を行うことが強く求められる。